

ほつかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道NIE推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎ 011-210-5802 FAX 011-210-5826

北海道新聞NIEホームページ (<https://nie.hokkaido-np.co.jp/>) でバックナンバーから閲覧できます

2022年度の日本新聞協会第13回「いっしょに読もう！新聞コンクール」で、立命館慶祥小学校（札幌市豊平区）1年の重松遙真（はるま）君の作品が、最優秀賞に次ぐ優秀賞に選ばれた。道内からの優秀賞受賞は4年ぶり。太平洋戦争末期の1945年（昭和20年）7月の釧路空襲で、見ず知らずの子をかばって亡くなつた女性の記事を取り上げて「すごいゆうきだ」と思いました。せんそくは、ぜつたいにしてはいけないと思います」とつづった。

惨状知り「戦争ダメ」

コンクールの受賞者は、昨年12月に発表された。小中高生と高専生が、2021年9月から1年間の新聞から選んだ記事を読んで応募。身近な人の意見を聞き、話し合つて感想をまとめるのが特徴だ。全国と海外から5万6998編（前年比7515編減）、うち道内から1072編（同206編減）が寄せられ、最優秀賞3人、優秀賞30人、奨励賞118人、優秀学校賞15校、学校奨励賞181校が選ばれた。

の子に覆いかぶさり、亡くなつた身元不明の女性に焦点を当てた。空襲では約200人が犠牲になつたが、

道内から4年ぶり



「いっしょに読もう！新聞コンクール」で優秀賞を受賞した重松遙真君（中央）と母親の理絵さん

理絵さんは、重松君が0歳児のころから、寝る前に絵本の読み聞かせをするのが日課だった。絵本千冊を読んだ未就学児童に札幌市が贈る「えほんマイスター（名人）」の称号を3歳で取得。定期的に本を借り続け、現在2千冊近くを読み破している。本のジャンルも人体や妖怪と広がり、今のお気に入りは日本の戦国武将の解説本だ。

小学校では、新聞記事を使つたワークシートの授業にも取り組む。戦争のニュース映像にも関心を持ち、血だらけの犠牲者に「ひどい組みなどを紹介。意見交流では、NIE活動の活発化に向けて情報交換した。全道13人のアドバイザーのうちの8人と、長くアドバイザーを務めたフェロー1人の計9人が参加。夕張市立ゆうばり小の富樺忠浩教諭は、「いっしょに読もう！新聞コンクール」について「記事を選び、他者の意見を聞いて感想文で考えをまとめること」などの意見が教諭は「いっしょに読もう！新聞コンクール」について「記事を選び、他者の意見を聞いて感想文で考えをまとめること」などの意見が

い」と目を背けることもありました。好きな教科は国語よりも算数。「知られていない性の勇気を持たえた。しかし、母親の理絵さんの平和を願う意見を受けて、最後にはウクライナ侵攻の惨状をニュースで見て戦争は絶対にしてはいけないと結論づけた。戦争の惨状を知り「国と国がよく話し合つてほしい」と訴える。

理絵さんは、重松君が0歳児のころから、寝る前に絵本の読み聞かせをするのが日課だった。絵本千冊を読んだ未就学児童に札幌市が贈る「えほんマイスター（名人）」の称号を3歳で取得。定期的に本を借り続け、現在2千冊近くを読み破している。本のジャンルも人体や妖怪と広がり、今のお気に入りは日本の戦国武将の解説本だ。

小学校では、新聞記事を使つたワークシートの授業にも取り組む。戦争のニュース映像にも関心を持ち、血だらけの犠牲者に「ひどい」と今も感謝する。重松君は、記事の見出し「名も知らぬおばあさん」

もった命、大切に生きてきた。に興味を持ち、女性の勇気をたたえた。しかし、母親の理絵さんの平和を願う意見を受けて、最後にはウクライナ侵攻の惨状をニュースで見て戦争は絶対にしてはいけないと結論づけた。戦争の惨状を知り「国と国がよく話し合つてほしい」と訴える。

重松君（立命館慶祥小）全国優秀賞

道推進協総会
5月13日開催

Eアドバイザーが、1年間の活動内容を報告するNIE全道アドバイザー研修会（北海道NIE推進協議会主催）は2月4日「北海道新聞本社（札幌市中央区）からオンラインで開かれた」写真に載った戦禍の記事。米軍の空襲時に当時7歳の男重松君が選んだのは、昨年7月16日の北海道新聞朝刊に載った戦禍の記事。米軍の空襲時に当時7歳の男

重松君が選んだのは、昨年7月16日の北海道新聞朝刊に載った戦禍の記事。米軍の空襲時に当時7歳の男重松君が選んだのは、昨年7月16日の北海道新聞朝刊に載った戦禍の記事。米軍の空襲時に当時7歳の男重松君が選んだのは、昨年7月16日の北海道新聞朝

い」と目を背けることもありました。好きな教科は国語よりも算数。「知られていない性の勇気を持たえた。しかし、母親の理絵さんの平和を願う意見を受けて、最後にはウクライナ侵攻の惨状をニュースで見て戦争は絶対にしてはいけないと結論づけた。戦争の惨状を知り「国と国がよく話し合つてほしい」と訴える。

理絵さんは、重松君が0歳児のころから、寝る前に絵本の読み聞かせをするのが日課だった。絵本千冊を読んだ未就学児童に札幌市が贈る「えほんマイスター（名人）」の称号を3歳で取得。定期的に本を借り続け、現在2千冊近くを読み破している。本のジャンルも人体や妖怪と広がり、今のお気に入りは日本の戦国武将の解説本だ。

小学校では、新聞記事を使つたワークシートの授業にも取り組む。戦争のニュース映像にも関心を持ち、血だらけの犠牲者に「ひどい」と今も感謝する。重松君は、記事の見出し「名も知らぬおばあさん」

もった命、大切に生きてきた。に興味を持ち、女性の勇気をたたえた。しかし、母親の理絵さんの平和を願う意見を受けて、最後にはウクライナ侵攻の惨状をニュースで見て戦争は絶対にしてはいけないと結論づけた。戦争の惨状を知り「国と国がよく話し合つてほしい」と訴える。

理絵さんは、重松君が0歳児のころから、寝る前に絵本の読み聞かせをするのが日課だった。絵本千冊を読んだ未就学児童に札幌市が贈る「えほんマイスター（名人）」の称号を3歳で取得。定期的に本を借り続け、現在2千冊近くを読み破している。本のジャンルも人体や妖怪と広がり、今のお気に入りは日本の戦国武将の解説本だ。

小学校では、新聞記事を使つたワークシートの授業にも取り組む。戦争のニュース映像にも関心を持ち、血だらけの犠牲者に「ひどい」と今も感謝する。重松君は、記事の見出し「名も知らぬおばあさん」

皮切りは6月14日に芦別市立上芦別小学校を会場として開く第15回空知地区セミナー。同小の中西亜美教諭が授業を公開。岩見沢東高の山口晴敬教諭が実践報告を行った後、参加者が研究討議を行う。

空知管内の教員を中心とし、会場校に集まつてセミナ

北海道NIE推進協議会は2023年度、全道7地区でのセミナー開催=表参照=を予定している。

2023年度NIE地区セミナー開催計画		
日程	地区	授業公開校
6月14日	空知	芦別市立上芦別小学校
7月12日	後志	小樽市立菁園中学校
8月31日	札幌	札幌市立もみじ台中学校
未定	未定	未定
10月18日	日胆	日高管内日高町立富川中
未定	上川	未定
未定	十勝	未定

* 札幌地区は北海道NIE研究会共催
上川地区は上川・旭川NIE研究会共催
十勝地区は十勝地区NIE研究会共催

ーに参加できるリアル開催と、全道の教育関係者や教員を目指す学生らがオンライン

地区セミナー 本年度も7回予定

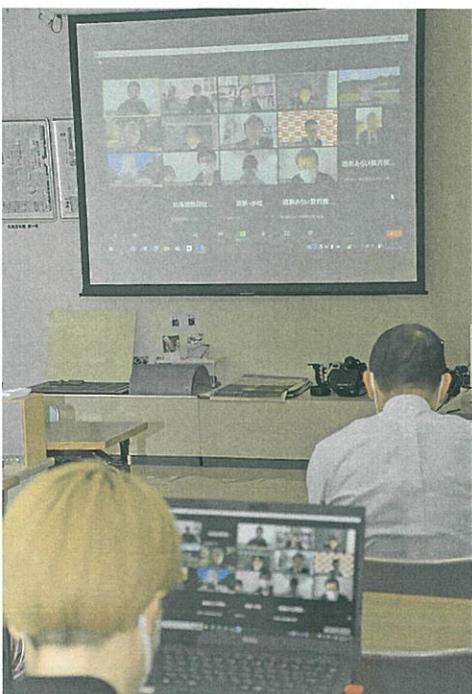
空知地区（芦別）皮切りに

2022年度の「大学の
NIEを考える会」が2月
28日、オンラインで開かれた。

座長を務める北星学園大の
阪井宏教授ら教員養成課程
のある大学・短大の教員と

学生ら計14人が参加。NIE活動の実践事例報告に統いて「大学と地域の連携」

大学での実践例報告 オンラインで「考える会」



大学・短大の教員と学生らが参加してNIE活動の実践事例報告や、課題討議を行った大学のNIEを考える会

続いてオンラインで7月12日に予定される後志地区セミナーの会場校は小樽市立善園中学校。同中の山崎史朗教諭が授業を公開し、小樽市立北陵中の窪田達大教諭が実践発表をする。その後の札幌地区や日胆地区、上川地区でのセミナーもオンラインで配信する計画だ。十勝地区でも授業公開と研究討議を予定していく



（菊池安吉会長）は8月10日、北海道新聞本社（札幌市中央区）を拠点にオンライン会議システム「Zoom」で、北海道NIE推進協議会（菊池安吉会長）は8月10日、北海道新聞本社（札幌市中央区）を拠点にオンライン会議システム「Zoom」で、北海道NIE推進協議会

3月10日に北海道セミナー 新聞D B の 活用法探る

交流で意見交換も
らに、道教委と札
の指導主事にも出
して指導助言をし
予定だ。

Journal of Health Politics, Policy and Law, Vol. 35, No. 4, December 2010
DOI 10.1215/03616878-35-4 © 2010 by The University of Chicago

1

術（ICT）を活用した授業を行う「GIGAスクール構想」を進める中、小中学校と高校の教諭1人ずつ計3人が参加して各校での実践内容について発表し、パネル討論を通じて交流する。パネリストは、立命館慶祥小（札幌市豊平区）の教諭と旭川明星中（旭川市）教諭、浦河高校（日高管内

いて説明した。
このほか、参加者からは「新聞は紙という概念を見直し、デジタルメディアを活用したNIEの取り組みを進める必要がある」「良質な情報を提供する媒体として新聞は今後も必要。大学の授業でも活用して応援していこう」といった意見が出ていた。
同会の開催は本年度で7回目。新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて19年度は中止された後、20年度から3年連続のオンライン開催となっている。

授業の改善目指し研鑽

北海道NIE推進協議会は2022年度に道内7カ所でNIE地区セミナーを開催した。このうち11月は根室、十勝、12月には上川、オホーツクの計4地区で実施。参加した教諭たちは、他校の公開授業や実践発表を通じて新聞を活用するNIEについて学び、意見交流会では日ごろ感じている疑問や課題などについて語り合った。

内中標津町）の木村直斗教

22年度
セミナー

内中標津町の木村直斗教諭、上西春別中（別海町）の早瀬香織教諭も、それぞれの取り組みを発表。参加者から「切り抜きで作った新聞を使って道外と交流しては」「活動で生徒は自らの成長を実感できている。指導する私たちも問われていてる」などの提言や意見が出されていた。

福祉業界の仕事 取材し新聞作り



中西別小で行われた「まわしよみ新聞づくり」の公開授業

上川地区

第21回上川地区セミナーは12月6日、北海道新聞旭川支社（旭川市）を拠点にZoomを用いてオンラインで開かれた。写真は、上川管内の小中学校の教員ら

約30人が、総合的学習の時間（総合）の授業を観聴し、意見を交わした。

北海道NIE推進協議会と上川・旭川NIE研究会が主催。小中学校1校ずつが実践例を報告した。

永山西小（旭川市）の4年生の授業では、児童が福祉業界で働く人に取材して新聞を作った事例を片原顕光教諭が紹介した。永山中

市場経済の理解へ
産地の記事も使う



第3回根室地区セミナーは11月29日、北海道新聞本社（札幌市中央区）にあるNIEプラザから、オンライン会議システム「Zoom（ズーム）」を使って開催され、教員や研究者ら約40人が参加した。

中西別小学校（根室管内別海町）は、セミナーに先だって公開授業「まわしよみ新聞づくり」を実施。児童が学年横断の数人の班に分かれて新聞から記事を切り抜き、お勧め順に大型の紙に貼る様子を配信した。

本間智子教諭は、「記事を選んだ理由を説明するために新聞を読み返すなど、児童に自発性が育つた」と授業

パソコンで北海道新聞の記事を読む芽室西中生



未来の南米を予測 芽室西中生 記事まとめる

十勝地区

は、芽室西中学校（十勝管内芽室町）で11月30日に開かれ、管内の小中学校教員ら約30人が地理と国語の公開授業を見学した。

「実社会との関わりを意識した新聞教育」を研究テーマに、北海道十勝新聞教育研究会が主催。芽室西中1年の社会科の授業Ⅱ写真Ⅱでは、掛水成幸教諭が南米でサトウキビを原料とするバイオエタノールが注目されていることを紹介。7月に帯広市で始まつたビートのバイオ燃料研究に関する

る記事を取り上げて「帶広からもバイオ燃料を輸出する可能性がある」と解説した。生徒はパソコンで「エタノールの研究が発展した」「豊富な駒山資源が取り尽くされた」など、未来の南米を予想して記事をまとめた。志村唯来（ゆら）さんは「新聞記事を読んだので授業の内容を身近に感じられた」と話した。

一方、2年生国語では小林京子教諭が単元「持続可能な未来を創るために」の授業を披露した。

の時、参考にしたのが生育不良や產地偽装などの新聞記事で、合計金額が一番多いグループに軍配が上がった。山崎教諭は「主権者としての意識・自覚が芽生えた」と手応えを話した。

一方、森下教諭は「読解力を高めるNIE」として、環境づくりで子どもが集まる新聞広場や朝の新聞放送を手がけた。学校に常駐する学校司書の取り組みにより環境が大きく変わったところへは「まず小さな一步が必要」と話した。

山崎教諭は価格を決める「市場経済」を理解するため生徒3、4人のグループで競う対抗戦を行つた。レモン、ジャガイモ、ホタテの価格変動に合わせ生徒はゲーム形式で売買した。こ

崎敦子教諭、南丘小学校（紋別市）の森下和樹教諭の2人が、新聞を効果的に使った授業実践や取り組みを発信し

新聞北見支社（北見市）を拠点にオンラインで開催された「写真」。実践発表で道立美幌高校（オホーツク管内美幌町）の山

(同) 3年生では、鏡拓也
教諭が北海道新聞の新聞記
事を用いて旭川市の課題を
探す方法を説明し、生徒た
ちが同市に改善案を示すた
めにアイデアを出し合う授

業を見せた。
参加者からは「総合など
教科書がない授業で、新聞
を軸にして学習を進めるこ
とは効果的」といった声が
挙がった。

未来の読者に「こどもしんぶん」



小・中学校の先生方の協力を得て毎週水曜日の十勝毎日新聞の紙面に掲載されている「かちまいこどもしんぶん」

現職の小中教員記事作成

十勝毎日新聞社NIEコーディネーター 舟越 洋一

「十勝の小学生たちに、優れた十勝の地域教材を、新聞を通して提供することによって、豊かな情操を深め、社会に関心を持つ主体的にたくましく生きる力を培うことを願い、教材の作成にあたる」。これは、未來の読者である小学生に読んでもらうため、毎週水曜日に弊社紙面に掲載している「かちまいこどもしんぶん」の編集方針である。

弊社では、記事作成にあたっては現職の小・中学校の先生方に「教材作成委員」になつていただいている。

る。今は、コロナ禍で学

校への取材が大変な中、よりいっそう現職の先生に書いてもらうことのメリットは大きい。

なぜ、こんなことが長年続けてこられているのか。それは、十勝には北海道で最も早い1990年に創設された「北海道十勝新聞教

校への取材が大変な中、よりいっそう現職の先生に書いてもらうことのメリットは大きい。

他にも、北海道十勝新聞教育研究会のOBC会の協力を得て、小・中学校からの依頼とともに「かべ新聞作り」の出前授業に出向いたり、幼稚園や保育所からの依頼とともに「はがき新聞作り」の出前授業に出向いたりしていっている。さらに、弊社の記者が学校に出向き出前授業をしたり、十勝管内の中学校や高校の生徒会や新聞部とともに各学校の「中学生のページ」や「高校生のページ」を作成したりしている。

このように、これからも弊社では現場の先生方のご協力を得て未来の読者である小学生や中学生、そして高校生に、新聞のよさを伝える活動を積極的に続けていく所存である。

編集後記

○…「セミナーや会議終了後、参加者の方々と一杯やりながら、いろんな話をお聞きしたかったなあ」と、何度も恨めしく思ったコロナ禍。

○…2022年度も北海道NIE推進協議会総会をはじめ、大半の地区セミナー、大学のNIEを考える会などがオンライン開催となつた。それでも、マスク着用は「個人の判断」になり、学校では4月1日から基本的に着用を求める。さらに感染症法の位置付けが5月8日、季節性インフルエンザ並みの「5類」に引き下げられる。

○…5月13日に札幌で予定する同協議会の2023年度総会や、その後の各種セミナーでも、オンライン配信と同時に、会場に集まる開催参加者を増やす予定。懇親会を開催するかは未定だが、全道でNIEを実践している教育関係者や、同協議会に加盟する報道関係各社の皆さんにお会いできるのが楽しみだ。交流を深めながら、NIEの一層の発展に貢献していきたいと願っている。



NIE全国大会宮崎大会で行われたパネル討論＝2022年8月4日

◆おことわり 「NIE実践奮闘記」は休みました。

委事務局（愛媛新聞社地域読者局読者部内）、電話089-935-2013（平日午前9時～午後5時）。